

ショパン国際ピアノコンクール優勝25周年を迎えるピアノ界の巨匠、スタニスラフ・ブーニン。
 2006年夏、アルカスSASEBOでブラハ放送交響楽団のソリストとして登場し、
 モーツァルトのピアノ協奏曲で、満席のお客様を魅了しました。
 今回は、アルカスSASEBOで初のソロリサイタル!!
 ますます深みを増す巨匠の響きをたっぷりとお楽しみください!

Profile

スタニスラフ・ブーニン Stanislav Bunin

ソヴィエト・ピアノ学校の著名な設立者で、リヒテル、ギレリス等の巨匠を育てたG. ネイガシスを祖父とし、ポーランドの作曲家K. シマノフスキーの血筋を引くブーニンは、1966年モスクワに生まれた。

1983年、史上最年少の僅か17才でパリのフィン・テイポ国際コンクール優勝、続いて、85年に第11回ショパンコンクールで優勝。併せてコンチェルト賞とポロネーズ賞を獲得。東西ヨーロッパ及び日本で本格的な演奏活動を開始、「ブーニン現象」と呼ばれる社会現象を巻き起こす。

ブーニンの音楽的経歴の新たなステップは88年ドイツへの移住とともに始まった。ザルツブルク音楽祭、ルツェルン国際音楽祭等、名高い国際フェスティバルに出演。またミラノ、ロンドン、パリ、ウィーンでのリサイタルも高く評価されている。

88年より東芝EMIと専属契約を結び、バッハ、モーツァルト、ショパン、ベートーヴェン他、10枚以上のCDを録音。

これまでにNHK交響楽団や、フランス国立管、ボストン響、ミュンヘン・フィル、ロンドン・フィル、ベルリン・フィル等、世界の主要オーケストラと協演。

ショパン没後150年にあたり、99年よりイタリアを中心とするヨーロッパ各地及び日本で全8回におよぶ「ショパンチクルス」をスタート。ショパン・イヤーの中でもその意欲的な企画は注目を集めた。2001年11月には締めくくりとしてワルシャワ・フィルと協演、ショパンコンクールの「再現」を果たした。05年、ショパンコンクール優勝より20年を迎え全国11カ所で「オール・ショパン・ピアノリサイタル」を開催、各公演満席の盛況を博した。07年秋のツアーではリサイタルの他、仙台フィル、アンサンブル金沢とベートーヴェンのピアノ協奏曲第3番を熱演、このアンサンブル金沢との協演は08年6月にEMIミュージック・ジャパンより発売。

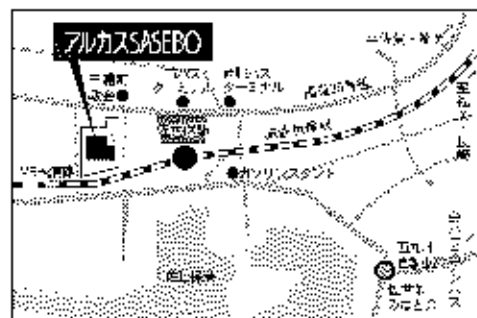
08年11月、日本デビュー20周年記念ツアーを全国で開催。09年ワルシャワ国立フィルハーモニーとの日本公演もショパンのピアノ協奏曲第1番を協演、大成功に終わり、このライブ録音も10年1月にEMIミュージック・ジャパンより発売された。

1月にはジャズピアニストの山下洋輔プロデュース「IMPROVISING ブーニン!」に出演、山下氏とのピアノ・デュオ、初のジャズ演奏を披露し注目を集めた。また、生誕200年を迎えたショパンの誕生日3月1日にはショパンが愛したピアノ「ブレイエル」で演奏、TV、新聞、雑誌で大きく報道される。

7月には生誕200年とブーニンのショパンコンクール優勝25周年を記念してチャリティ・ガラコンサートを開催。生誕200年ショパン・イヤーの掉尾を飾るこの秋のリサイタルツアーは内外から注目されている。



■ 周辺地図



■ アクセス

- 【JR】 福岡 — (約110分) — 佐世保駅
 長崎 — (約90分) — 佐世保駅
 * 佐世保駅から徒歩3分
- 【バス】 福岡 — (約120分) — 佐世保
 長崎 — (約90分) — 佐世保
- 【車】 西九州自動車道 佐世保みなとICから約5分